

【オリコンサルHD 今期受注100億上積み800億 海外大型案件寄与 受注残高は1200億超】

オリコンサルHD

# 今期受注100億上積み800億

## 海外大型案件寄与 受注残高は1200億超

オリエンタルコンサルタンツホールディングスの受注が国内外とも着実に伸長、2019年9月期第2四半期の連結受注高は前期比17・5%増の535億9300万円、受注残高も29・1%増の1202億2300万円まで積み上がり、ともに過去最高を更新した。

30日に開いた今第2四半期決算説明会で野崎秀則社長は今期の受注高について「期初に示した700億円に100億円プラスした800億円が1つの目安となる」と語った。さらに今期を初年度とする2025ビジョン・中期経営計画で掲げる25年9月期での売

上高700億円以上の目標達成についても「前倒しできるよ努力していく」と意欲をにじませた。

上期の連結受注高を国内外市場別にみると、国内は16・1%増の180億3500万円、海外が18・2%増の355億5700万円。国内ではインフラ整備・保全、再開発業務、地方創生関連業務が順調で、海外ではフィリピン、インドネシアの軌道系を中心とした大型案件受注が寄与した。

事業が多い。5年、10年を見越して売り上げの時期を均衡

がとれたものとし、会社として成長していけるかという観点が大切になる」との考えを示した。

上期での連結売上高は12・5%増の275億4700万円、営業利益が27・8%増の12億7500万円、経常利益が42・5%増の11億1500万円、純利益は33・8%増の

9億400万円といずれも過去最高を更新。通期でも売上高540億円、営業利益21億円、経常利益20億300万円、純利益12億6000万円の当期計画を達成する見通しで、すべての指標で過去最高を更新し8期連続の増収増益を見込む。

野崎社長は海外受注が好調なことも受注残高の大幅な増加につながっていると上

で「国内に比べて海外は長期